

第7節 今後に向けて

第2次健康あきた市21は、平成25年の計画策定から4年が経過しました。この間、10の健康目標と7つの重点分野別目標について、市民や関係者、行政が連携し取組を進めてきました。

この度の中間評価の結果、重点分野全体において「改善または前進した」指標は、全体の63%、「未だ改善が見られていないまたは後退した指標」は24%、「どちらともいえない」指標は13%で、重点分野別の達成状況をみると、「たばこ」「アルコール」「歯・口腔の健康」「健診（検診）」において改善・前進の割合が高く、「栄養・食生活」「身体活動」「こころの健康づくり」で低い結果となりました。

健康あきた市21推進会議による総合評価においても、改善・前進がみられた4分野については、「概ね達成されている」のA評価、改善・前進に至っていない3分野については、「数値目標は未達成であるが、目標を達成するための事業が実施されている。」のB評価でした。B評価については、目標達成に向けた効果的な事業展開や市民への普及啓発が課題であり、A評価についても今後の社会状況の変化に応じ、関係機関が連携した取組の推進により、さらなる前進をめざしていく必要があります。

ライフステージ別では、幼年期や高齢期において「改善または前進」の項目が多い一方、壮年期、中年期の就労世代では「改善に至っていないまたは後退」の項目が多くなっていました。

就労世代は、仕事や家庭での役割・責任が増加する多忙な年代であり、健康への関心が希薄になりがちですが、自らの生活習慣を振り返り、積極的に健康づくりに取り組むことが必要です。

また、幼年期、少年期の子どもが健やかに成長できるよう、社会全体で健康に対する意識を高めるとともに、高齢期においては、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、様々な機会をとらえ健康づくりを進めていきます。

第2次健康あきた市21は、平成30年度から後半に入ります。

今後は、今回の中間評価で明らかになった各重点分野やライフステージの課題について、家庭、職場、学校、地域との一層の連携を図りながら市民の健康づくりに取り組み、一人ひとりが自分らしい暮らしを維持し、いきいきと年を重ねることができるよう、第2次健康あきた市21に基づく施策を展開してまいります。